

◆骨粗しそう症とは

これらの薬は、骨形成を促したり骨吸收を抑制します。

私たちの体の中では日々古い骨を壊して（骨吸収）、新しい骨を作る（骨形成）という繰り返しのプロセスが行われています。骨粗しそう症は、女性ホルモンの消退や加齢により、骨を「壊す」と「作る」のバランスが崩れて、骨が脆くなり、骨折やすくなる疾患です。

日本では骨粗しそう症に罹っている方が増加傾向にあり、1590万人以上ると推定されています。

## 骨粗しそう症と歯科治療の関係

～歯科医院受診時は  
お薬手帳の提出、治療中の申し出を～

クレロスチン抗体は、まことに顎骨壊死（薬剤関連性顎骨壊死）を引き起こす副作用が報告されています。

この顎骨壊死は、虫歯や歯周病による歯肉・顎骨の炎症や、入れ歯などによる歯肉の傷への細菌感染により発症する場合もあります。

お薬手帳を持参してください。手帳には書かれていない注射投与もあります。

中でも顎骨壊死に影響を与えないものもあります。

ので、自己判断せず必ずお薬手帳を持参してください。

◆骨粗しそう症と歯科治療

骨粗しそう症治療をされている方、またおそれから治療をする方は歯科受診時には注意が必要です。

お薬手帳の提示を忘れずに

骨粗しそう症治療薬の接影響する処置は特に注意が必要です。

一般的な処置でも細菌感染が顎骨壊死の引き金となることもあります。

定期的なメインテナンスが大切です。ヤルノケアや定期的な歯科検診でお口の中の細菌をなるべく減らすよう心がけましょう。

### 骨吸收抑制薬剤 使用中

鶴岡地区歯科医師会

（鶴岡地区歯科医師会）

骨粗しそう症の主な治療薬は・デラスホスホナート製剤（BP製剤）・抗RANKL抗体（アノスマブなど）・抗スクレロスチン抗体（ロモソスマブ・タクミン製剤カランウム製剤、女性ホルモン製剤、副甲状腺ホルモン製剤などがあります。）

たゞする働きがあります。このうち、BP製剤、抗RANKL抗体、抗ス

骨粗しそう症治療薬の接影響する処置は特に注意が必要です。

一般的な処置でも細菌感染が顎骨壊死の引き金となることもあります。

定期的なメインテナンスが大切です。ヤルノケアや定期的な歯科検診でお口の中の細菌をなるべく減らすよう心がけましょう。

詳くはかかりつけの歯科医院でお尋ねください。